

**想定した経営類型 いちじく(無加温、露地)**

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴
いちじく ハウス20a 露地20a (動噴防除体系) 経営耕地面積 自作地40a	人  2.0	いちじく(無加温)	a 20	1.無加温と露地の組み合わせで、労力分散と出荷期間の延長を図る 2.収穫後の鮮度保持のため、予冷库を設置する
		いちじく(露地)	20	
		合計	40	
経営目標	1 農業総収入	4,683 千円	4 1日当たり農業所得	7,543 円
	2 農業経営費	3,046 千円	5 1人当たり年間労働時間	868 時間
	3 農業所得	1,637 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
					千円	年	千円
建物・施設	無加温ハウス(単棟ハウス) 【5,303千円/10a】	2	連棟標準型(換気扇無し)	1	10,608	8	663
	予冷库	1	プレハブ式1坪タイプ	1	609	7	44
	誘引パイプ鉄線	4		1	1,000	7	71
	作業収納舎66㎡	1	鉄骨組み	1	3,136	24	131
	計				15,353		909
農機具	トラック(軽)	1	0.35t積み、4WD	1	697	4	87
	小型運搬車	1	2.2kw	1	163	4	20
	動噴	1	4.0MPa	1	199	7	14
	刈払い機	2	排気量20.9ml	1	88	7	6
	計				1,147		128

3-1. 技術体系(いちじく: 柵井ドーフイン、無加温)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
せん定	せん定	12月～1月	運搬車	1	16	16		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一文字整枝とし、結果母枝は主枝の両側に20cm間隔(片側 40cm)に配置する。</li> <li>・結果母枝は基部の2芽で切り返す。</li> <li>・せん定枝は、園外に持ち出す。</li> </ul>
土壌改良	堆肥、稲わら土壌改良資材施用	10～11月	運搬車	2	5	10	堆肥 2t 苦土入りカキガラ石灰 150kg	・土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用する。
	客土			2	6	12	山土 10t/3年	・2～3年に一回を目標に客土を行い、発根を促す。
草生管理	草刈り	3～8月	刈払機	1	12	12	稲わら1t	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲わらを畝上に敷き、土壌改良と草管理を行う。</li> <li>・早めに除草を行う。</li> </ul>
施肥	基肥	11/下～12/上	運搬車	1	8	8	配合肥料 (N:10%)120kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥料の種類、施肥量は土壌の種類、樹勢、収量により調整する。</li> <li>・施用後、土と軽くかき混ぜる。</li> <li>・施肥後は灌水する。</li> <li>・年間の窒素分割合 基肥 50% 追肥 15% 追肥 15% 礼肥 20%</li> </ul>
	追肥 追肥 礼肥	3/上～中 6/中～下 10/中～下						
防除	薬剤散布	3～6月	動噴	2	11	22	1回の散布量 300～500L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井ビニール除去後は降雨で病害虫の発生も多くなる。特に雨滴の跳ね返りを防ぐため敷わらをする。</li> <li>・園内の通風をよくする。</li> </ul>
熟期促進	熟期促進剤	6/中～9/下		1	44	44	エスレル10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成熟予定15日前、果面が濡れる程度スプレーで散布する。</li> <li>・反射フィルムを畦の上に被覆し、熟期促進を図る。</li> </ul>
	反射マルチ設置	6/上		2	6	12	シルバーマルチ	
収穫出荷	収穫調整出荷	7/上～9/中	トラック	2	100	200	パック(250g) 8,000パック 外箱 (4パック詰) 2,000箱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は完熟よりもいくぶん早めに行い、日持ちを良くする。</li> <li>・果実温度の低い早朝に収穫し、鮮度保持のため出荷まで予冷庫に保存する。庫内温度は晴天日で12～13℃、雨天日で8～10℃を目安とする。</li> <li>・収穫果はていねいに取り扱う。</li> </ul>

3-1. 技術体系(いちじく: 柵井ドーフィン、無加温)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
新梢管理	芽かき 摘心 誘引	3月 ～ 6月		2	18	36	誘引ひも	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主枝から直接発生した不定芽は除去し、1結果母枝に1新梢を誘引する。</li> <li>・結果枝本数の目標は、10a当たり2,500本とする。</li> <li>・新梢は17～18節で摘心する。</li> </ul>
フィルム等被覆管理	外フィルム被覆	2/下		4	8	32	外フィルム(0.1mm): 7.0×45m 4本 サイドフィルム(0.1mm): 2.8×42m 2本 3年使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保温効果を高めるよう努める。</li> <li>・外気温が15℃を越えるようになったらサイドフィルムを除去する。</li> <li>・収穫後、出来るだけ早くフィルムを除去する。</li> </ul>
	外フィルム除去	9/下		2	4	8		
温度管理	保温 換気	2/下 ～ 9月	換気扇 谷、サイド換気装置	1	50	50		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼温は25～28℃を目標に管理し、夜間はできるだけ保温に努める。</li> <li>・晴天時はサイド換気を行い、30℃以上の高温にならないよう注意する。</li> </ul>
水管理	灌水	2～ 8月	灌水施設	1	10	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・被覆直後、10a当たり50t以上灌水する。</li> <li>・発芽までは、十分に灌水する。また、枝散水を一日2～3回行い、ハウス内の湿度を高める。 5日間隔で15～20t/10a</li> <li>・展葉後、やや節水する。 5日間隔で10～15t/10a</li> <li>・成熟期にも、一定量の灌水を続ける。 5～7日間隔で10～15t/10a</li> <li>・収穫終了後も過乾燥にならないよう、必要に応じて灌水する。</li> </ul>
その他	作業道 排水溝 防風垣 の整備 災害対策など	6～ 10月		1	8	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いちじくは過湿に弱いので、水田の場合は、排水対策を万全に行う。</li> </ul>
計						480		

3-2. 技術体系(いちじく: 柵井ドーフィン、露地)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
せん定	せん定	2月	運搬車	1	16	16		<ul style="list-style-type: none"> <li>一文字整枝とし、結果母枝は主枝の両側に20cm間隔(片側 40cm)に配置する。</li> <li>結果母枝は基部の2芽で切り返す。</li> <li>せん定枝は、園外に持ち出す。</li> </ul>
土壌改良	堆肥、土壌改良資材施用	11/上~中	運搬車	2	5	10	堆肥 2t 苦土入りカキガラ石灰 150kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用する。</li> </ul>
	客土			2	6	12	山土 10t/3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>2~3年に一回を目標に客土を行い、発根を促す。</li> </ul>
草生管理	草刈り	3~9月	刈払機	1	14	14	稲わら1t	<ul style="list-style-type: none"> <li>稲わらを畝上に敷き、土壌改良と草管理を行う。</li> <li>早めに除草を行う。</li> </ul>
施肥	基肥	11/下~	運搬車	1	8	8	配合肥料 (N:10%)150kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>肥料の種類、施肥量は土壌の種類、樹勢、収量により調整する。</li> <li>施用後、土と軽にかき混ぜる。</li> <li>施肥後は灌水する。</li> <li>年間の窒素分施割合 基肥 50% 追肥 15% 追肥 15% 礼肥 20%</li> </ul>
	追肥	12/上						
	追肥	3/上~中						
	礼肥	6/中~下 10/中~下						
防除	薬剤散布	4~7月	動噴	2	11	22	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> <li>加温栽培に準ずるが、特に露地栽培では降雨により疫病、炭そ病が発生しやすいので、防除を徹底する。</li> </ul>
熟期促進	熟期促進剤	7/上~10/下		1	42	42	エスレル10	<ul style="list-style-type: none"> <li>成熟予定15日前、果面が濡れる程度スプレーで散布する。</li> <li>シルバーフィルムを畦の上に被覆し、熟期促進を図る。</li> </ul>
	反射マルチ設置	7/中		2	6	12	シルバーマルチ	
収穫出荷	収穫調整出荷	8/中~10/下	トラック	2	102	204	パック(250g) 5,200パック 外箱(4パック詰) 1,300箱	<ul style="list-style-type: none"> <li>無加温栽培に準ずるが、露地栽培では降雨後に腐敗果が多くなるので、出荷に当たっては特に注意する。</li> </ul>

3-2. 技術体系(いちじく: 柵井ドーフイン、露地)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
新梢管理	芽かき 摘心 誘引	4/中 ~ 8/上		2	18	36	誘引ひも	・主枝から直接発生した不定芽は除去し、1結果母枝に1新梢を誘引する。 ・結果枝本数の目標は、10a当たり2,500本とする。 ・新梢は17~18節で摘心する。
水管理	灌水	4~ 8月		1	8	8		・土壌乾燥の程度に応じて、過湿、過乾がないように適宜灌水する。
その他	作業道 排水溝 整備	6~ 11月		1	8	8		・いちじくは過湿に弱いので、水田の場合は、排水対策を万全に行う。
計						392		

4. 品目の作付体系

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
いちじく (無加温)	せん定	∩ 施肥	↑	◎ 誘引		施肥 摘心	■◆		■◆U	施肥	施肥 土壌改良	
いちじく (露地)		せん定 施肥		↑	◎ 誘引	施肥	摘心	■◆		■◆ 施肥	土壌改良	施肥

注) 生育ステージ記号 ↑: 発芽 ◎: 着果始め ※: 開花 ■: 収穫 ◆: 出荷 ∩ U: ビニール被覆・除去

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

1)いちじく(無加温)

品目・作業/月	10												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
せん定	8												16
土壌改良										12	10		22
草生管理			2	2	2	2	2	2					12
施肥			2			2				2			8
防除			2	2	2	2	2						22
熟期促進処理						12	4	4	4	4	4		56
収穫出荷							24	24	26	24			200
新梢管理			3	3	3	3	3						36
被覆・除去			32										40
温度管理			5	3	3	3	2	2	1	1	1		50
水管理			1	1	1	1	1						10
その他						4				4			8
計	8	0	0	0	38	8	11	8	7	10	9	8	27
月計	8	38	27	26	27	51	97	32	33	32	97	18	480

2)いちじく(露地)

品目・作業/月	10												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
せん定		4	8	4									16
土壌改良											12	10	22
草生管理			2	2	2	2	2	2					14
施肥			2			2				2			8
防除			2	2	2	2	2	2					22
熟期促進処理						2	12	4	4	4	4		54
収穫出荷							24	24	26	28	24		204
新梢管理				3	3	3	3	3					36
水管理				1	1	1	1						8
その他						4					4		8
計	0	0	0	4	8	4	0	2	2	3	5	6	27
月計	0	16	4	14	18	25	36	67	96	88	26	2	392

6. 総労働時間

総労働時間	10												計																												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																													
うち家族労働	16	0	0	8	16	84	16	26	20	30	30	20	34	30	52	56	44	78	102	86	80	122	126	118	122	94	68	60	84	84	20	4	0	16	1,744						
うち雇用労働	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	1,744
計	16	0	0	8	16	84	16	26	20	30	30	20	34	30	52	56	44	78	102	86	80	122	126	118	122	94	68	60	84	84	20	4	0	16	1,744						